



いつまでもお元気で！

前田サヨさん・永戸ツヨ子さん 100歳のお誕生日

前田サヨさん（鷹島・里）が8月20日、100歳の誕生日を迎えました。

前田さんは大正5年生まれ。趣味は手芸（刺繍）で、ゲートボールやグラウンド・ゴルフも楽しまれていました。現在は、入所中のグループホームねん輪（福島町）でレクリエーションに参加するなど、楽しく過ごされています。

この日は、家族や入所者に囲まれ、友広市長からお祝いの言葉や花束を受け取りました。



永戸ツヨ子さん（今福・仏坂住宅）が8月31日、100歳の誕生日を迎えました。

永戸さんは大正5年生まれ。80歳ごろまで趣味の大正琴や三味線を楽しまれていました。現在は、週2回デイサービスを利用したり、新聞や大好きなテレビ番組を見て楽しく過ごされています。

この日は、自宅で家族に囲まれ、友広市長からお祝いの言葉や花束を受け取りました。



犠牲者を悼み「元寇記念祭」

元寇記念祭実行委員会

元寇の犠牲者を慰霊する「元寇記念祭」（鷹島町元寇記念祭実行委員会）が8月30日、鷹島開発総合センターで行われました。

「元寇記念祭」は今年で100周年を迎え、また、神崎沖海底で元寇船が発見されたことから、その海を臨むことができる同会場で開催されました。

会場には、地元の各種団体代表者など約30人が参列し、玉串や慰霊の言葉を捧げるなど、犠牲者の冥福を祈りました。



真夏の夜の“こわ〜い”お話！

まつうら図書館きらきら塾

まつうら図書館きらきら塾主催による「こわ〜いおはなし会」が8月21日、URACCOおよび図書館のテラスで開催されました。

この日、会場ではヨーヨーすくいやお化け屋敷、こいのぼりくぐりなども行われ、訪れた子どもたちは楽しんでいました。

日が暮れて薄暗くなると、ライトアップされた会場で「こわ〜いおはなし会」が始まりました。参加した親子連れなど約100人は、怖い話を聞いて涼みながら、真夏の夜を過ごしました。



Student Cultural Exchange between Australia and Japan

— オーストラリアと日本間の生徒を対象とした文化交流 —



ブレンダン・ピアス
Brendan Pierce
アメリカ出身

こんにちは！
外国語指導
助手です。



文化交流は、全ての児童、生徒にとって学ぶべき最も重要なことだと思います。私たちは壁ではなく、橋を造らなければなりません。特に異文化間において、これは重要なことです。異文化を学ぶには、ただ読んだり、机上で勉強したり、物を見たりするのではなく、「経験」することが一番の教師だと私は信じています。

松浦市で行われているすばらしい事業の一つが、オーストラリアと日本の文化交流です。特に8月と9月は大切な事業が実施されます。

8月は松浦の中学・高校生が約1週間オーストラリアのマッカイ市を訪問して、色々なプログラムに参加し、多くのことを学びます。プログラムの中には、ホストファミリーとの生活、学校訪問、マンゴーの加工所の見学、ブッシュダンスなどが含まれています。生徒たちにとってこれらは本当にすばらしい経験で、一生忘れることはないでしょう。

9月には、オーストラリアの生徒たちが日本にやって来ます。彼らも、ホストファミリーと生活し、日本語を学び、学校を訪問し、本物の日本食を食べるといった経験をします。また、期間中、英語を学ぶ上で最高の挑戦ともいえるスピーチコンテストも開催されます。

私はこれらの事業に参加して刺激を受けた生徒たちが、これからも互いの文化を学び続けて、両国の懸け橋となってくれることを願っています。



図書館の
おすすめ

BOOK
本

市立図書館
☎ 0956-72-4677



松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索

土日、祝日も開館しています。(年末年始、臨時休館を除く)



『柿づくし 柿渋、干し柿、柿酢、柿ジャム、紅葉保存』

浜崎 貞弘／著 農山漁村文化協会

10月26日は柿の日。俳人・正岡子規も愛した果物で、実や葉っぱはもちろんへたまでムダなく使い切れ、うれしい効用もいろいろある柿。失敗しない加工や保存の方法、柿産地農家の柿料理レシピなどを収録した、古くて新しい『柿』の魅力満載の一冊です。



『もりもりさまの森』

田島 征三／作 さとう なおゆき／絵
理論社

「森が、タイヘン」穴があいた葉っぱの手紙に導かれて森へ行った林太郎たちは、家族で動物に変身！？そこへ森の開発を進める人間たちがやってきて…山里に住む人々と生き物たちへのメッセージがつまった絵本作家、田島征三さん初の童話です。

◆◆◆中学生のお気に入り！◆◆◆



写真：松尾勇輝さん

このコーナーでは職場体験学習で図書館に来てくれた中学生のお気に入りの一冊を紹介します

【お気に入りの本】

『テロリストの息子』 ザック・エブラヒム／著 ジェフ・ジャイルズ／著 朝日出版社

この本はタイトルの通り主人公の父親がテロリストになったという話です。僕はこの本を読んでいる時にテロリストの息子というだけで周りの人からいじめられたりする事に少し考えさせられました。だけど、そんな状態でも自分のストーリーに価値があると思えることはすごいと思いました。僕もそんな考えができるようになりたいです。